

令和8年度 入学試験問題

国語

九州国際大学附属中学校

【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、問題の指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

字数制限のある問題については、句読点なども一字とします。

受験 番号				氏 名	
----------	--	--	--	--------	--

□ 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。習っていない漢字にはひらがなで読みがなをふっています。なお、字数を指定している問題は句読点やかぎカッコも一字と数えます。

マラソンを走っている数時間、①人間の身体はまったく同じ状態にあるわけではない。絶えず、激しい新陳代謝^{しんちん}や、酸素交換^{こうさん}、水分や老廃物の排泄^{はいせつ}などをくりかえしている。それはちょうど海の波のようだ。穏やかなときもあれば、激しくうねり狂う^{くる}ときもある。身体の変化と同様、身体が感じる苦しさにも波がある。苦しさもずっと続くわけではなく、走り続けていると、**A** 楽になる。ただ、楽なときは問題ないが、苦しいときにはどうしても身体に余計な力が入ってしまう。

レースがスタートしてからの五キロは、②その身体の変化の波にうまく乗るきっかけをつくる最初のポイントだ。このポイントを、うまくリラックスして乗り越えられれば、後半までリラックスする感覚は残り、身体の変化の波にも乗りやすくなる。しかし、最初のきっかけで**⑥**力むと、後半までそのかんだ感覚が残ってしまい、変化の波に**③**翻弄^{ほんろう}され、理想的なペース配分がなくなりづらくなる。

また、最初の五キロは、サブフォーペースの場合、時間にして二五分〜三〇分。ちょうど脂肪の**⑦**燃焼が活発になってくるころだ。その脂肪燃焼プロセスをうまく活用するためにも、リラックスすることが大切なのである。

時には数万人にも及ぶたくさんのランナーが集まり、**B** お祭り騒ぎのようなマラソン大会。

リズムカルな音楽、雄叫び、ヘリコプターの爆音、応援の観客からの歓声、そして、スタート時のピストル音。

そんな状況におかれたランナーは誰でも、気持ち緊張したり昂ぶったりするだろう。レース経験があまりない初心者であればなおさらだ。

しかし、興奮状態も度が過ぎると問題である。興奮は、酔った状態のように、人間の頭の中を真っ白にする。**C** 考えてきた理想のペース配分やレースでの作戦、ウォーミングアップもどこかに飛んで行ってしまふ。

狙った記録で確実に走りきるためには、**④**興奮のなかにも、どこか冷静な自分を常にもつべきだろう。冷静な状態とはどんな状態のことをさすのか。それは、まず、周囲がよく見えていること。そして、自分の状態を客観的によく把握できていることである。

「彼はとても絞れた脚^{あし}をしているし、筋肉も十分そうだから、サブスリーランナーだろうな」などと周囲のランナーを観察して、自分の評価をしてみるのもいいだろう。

また、持ち物やウェア、計測チップなど、忘れてはならない自分の準備が万端に**⑧**整っているか、一つひとつを指差し確認するくらい余裕はほしい。

マラソンを④制するためには、心・技・体の総合力が必要である。そして、マラソンのレースをうまく走りきるためには、⑤スタートからゴールまでを起承転結で考える、トータルコーディネイト能力が必要となる。レースをトータルにとらえることは、常に先のことを予測しながらレースを運ぶことでもある。

(金哲彦『3時間台で完走するマラソンくまはウォーキングから』)

問一 ㉖㉗の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二

A

C

 にあてはまる最も適切な言葉を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア まるで イ やがて ウ あまり エ せっかく

問三 ①「人間の身体はまったく同じ状態にあるわけではない」とありますが、「まったく同じ状態でない」ことを、筆者は何にたとえていますか。本文中から三字で探し、書きぬきなさい。

問四 ②「その身体の変化の波にうまく乗るきっかけをつくる最初のポイントだ」とありますが、ここではどうすることが重要だと筆者は述べていますか。本文中から九字で探し、書きぬきなさい。

問五 ③「翻弄され」とありますが、「翻弄される」の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 体力がなくなること。

イ 速く走ること。

ウ 自分の思いどおりに進むこと。

エ 予想外のことにふり回されること。

問六

—— ④「興奮のなかにも、どこか冷静な自分を常にもつべきだろう」について、

(1) 興奮しすぎるとどのような問題が起こるのですか。次の文の空らんにあてはまる言葉を本文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

・ **1(五字)** や **2(二字)** などを忘れてしまう。

(2) 冷静な状態であるために、具体的にどんなことをするとよいと述べていますか。それをまとめた次の文の空らんにあてはまる言葉を本文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

・ **1(七字)** をよく見て **2(七字)** をしたり、自分の準備ができていくかひとつずつ **3(五字)** したりするとよい。

問七

—— ⑤「スタートからゴールまでを起承転結で考える、トータルコーディネイト能力が必要となる」とありますが、「トータルコーディネイト力」とはどのような力ですか。次の文の空らんに当てはまる言葉を、**1**は本文中から九字で探して書きぬき、**2**は自分で考えて五字以内で答えなさい。

・ **1(九字)** しながら、レース全体を見通して、スタートからゴールまでを **2(五字以内)** 走る力。

問八

この文章で筆者が伝えようとしていることとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア マラソンの歴史。
- イ マラソンの楽しさ。
- ウ マラソン大会の様子。
- エ マラソンを走るとき心がまえ。

二

次の文章をよく読んであとの問いに答えなさい。習っていない漢字にはひらがなで読みがなをふっています。なお、字数を指定している問題は句読点やかぎかっこも一字と数えます。

小学五年生のみずほは、兄の義人と両親、祖父母の六人家族で、二階にみずほたち家族が、一階には祖父母が住んでいる。祖父（おじいちゃん）は病気が再発したが、積極的な治療をせずに自宅で過こすと言っていると両親から聞かされていた。みずほはおじいちゃんが大好きで、いつか二人でドライブに行きたいとせがむと、「必ず行くよ」と約束してくれた。

そして約束を守って、おじいちゃんはみずほをドライブにつれていってくれた。これまでも花の苗や種、㉑キユウコンなどを買いに園芸店に行くときはみずほをさそって来ていた。その店は遠くだったし、ふたりきりなのでよく話せた。

おじいちゃんは前を見ながらハンドルをにぎっていて、みずほも前を見つけて話したので、家で話すよりいいにくいこともいえた。このところおじいちゃんの病気についての情報は、みずほの耳には入ってこない。心配するほどのことではなかったのでは、と思うことがある。でも㉒はつきりとおじいちゃんの口から聞きたかった。

「知ってるんやけど、わたし。……おじいちゃんの病気のこと」

みずほはちよつとX口ごもりながらたずねた。

「再発したって……、ほんと？」

ちらつとおじいちゃんを見た。おじいちゃんは下くちびるをつきだし、うむ、とつぶやき、小さくうなずいた。

「そんな！ じゃ、なんて治療をしないと決めたん？」

おじいちゃんはすぐには口をひらかなかった。

「㉓だって、わたし、二年生のとき腕を骨折したけど、ちゃんとお医者さんが治してくれたはったやん。おばあちゃんだって目の手術して、よく見えるようになったやん。なんでおじいちゃんは治療しないのよ」

一気にいった。いいながらだんだん腹が立ち、早口になった。

「おじいちゃん、治療しないんはまちがってると思うよ」

みずほはいらいらして胸が苦しいようで、シートベルトを手でゆるめるように引っぱった。おじいちゃんは窓をすこしあけた。

「そうか、知ってたんか。かくす気はないんやけどな、まあ、はやくから心配させてもな」

ちよつと小首をかしげ、Y苦わらいした。

「心配するよ。あたりまえやわ、お兄ちゃんもみんな心配してる。みんなおじいちゃんに長生きしてほしいから」

怒りか心配か自分でもわからない。涙がこみあげてくる。それでもおじいちゃんは、なだめるようにしずかにつづけた。

「おおきに。でもな、今のおじいちゃんには、③病院のベッドで過ごすのは、もったいない時間の過ごし方だやねん。お医者さんもおじいちゃんの年齢になったら抗がん剤などの治療はすすめられない、っていうてはる。おじいちゃんはその先生を信頼した」

⑥シンコクな声でも無念そうな声でもない、いつものやわらかいものいいだった。それがまたみずほはもどかしく、さらにふみこんだ。「でも治療しないと、どんどん、わるくなるんちがうの?」

「いやいや、そうともかぎらん。治療することで副作用がひどく出て、今まであたりまえにしてきたこともできんようになる場合もある。おじいちゃんはな、死んだらおしまいとは思ってない。生きることのつづきに死があると思うから、今のくらしを大切に、ふつうにつづけていただけや」

「どんな?」

「朝おきて、二階でみずほたちの足音がしているのを聞くやろ。あ、上の四人は元気で、仕事やら学校に行くんやなあ、って思うとうれしいで。それから身じたくして、おばあちゃんの作ってくれる朝ごはんをおいしいなあというて食べるやろ。いっしょにあとかたづけしたり、庭の花の手入れしたりする生活が好きやねん。それがうれしい」

「好き? うれしい? 毎日でも?」

「ああ、草花に日がちゃんとあたるようにまわりを手入れして、水やったり、ときには肥料や⑦シヨウドクもしてやるねん」

それはみずほも見ているから知っていた。でもそれが、すぐくうれしいというほどだとは思わなかった。

「それにな、『せいっぱい咲くんやで』って声かけてやるんや」

「花に?」

「そうや、話しかけるんが大事や。そうするとちゃんと咲いてくれるから、『おおきに、みごとな咲きっぷりやで。みんなを楽しませてくれて、ありがと』っていうねん。それはみずほのひいおばあちゃんの口ぐせやっけんけど、知らんまにぼくもいうようになってたな。それから、花が終わったら、お礼肥するやろ。あれは咲いてくれてありがと、おつかれさん、ゆっくり休んで、また来年も咲いてな、というお礼とお願いのごちそうや。咲いたあとは地面の下でキュウコンを太らせたり根を広げたり、種を飛ばしたりして⑧シンソンを残していく。花の世話するものはな、花を見ることができると保証されたわけやない。それでも元気な花が咲くように、そのときどきのしないといけないことするのが、大事な仕事や」

おじいちゃんのいわんとすることはわからなくはないけれど、どこかそのさきを聞きたくない気持ちがあって、みずほはむっつりし

たまたまだった。

「人間もな、自分の持ち時間をていねいに生きることが大切やと思う。まわりの人といっしょにな。そうすると、自分がいなくなっても、その人たちの心の中に、いっしょに過ごした思い出が残るやろ。おじいちゃんもな、いろんな人が心の中でいっしょに生きているように思うんや。おじいちゃんの親もずいぶん前に死んだんやけど、おじいちゃんの心の中でいっしょに生きつづけている。だからおじいちゃんも、みずほたちの心の中で生きていたいな」

「いやっ！ おじいちゃんがいなくなるのはいやや」

みずほは泣きそうになった。

「ごめんごめん、みずほには刺激が強すぎたな。でもな、生まれたら、かならず死ぬ、これは動かしようがない。それはわかるな」

うん、とみずほは力なくうなずいた。でも考えたくない。

だって、おじいちゃんは運転もしている。庭仕事もできる。散歩も毎日している。元気ではないか。だからもつと歳をとって、歩けなくなったり、寝たきりになって、ごはんも食べられなくなったときなら、ともかく。

「おじいちゃんのこと、大事に思っていてくれて、ありがとう」

ちらつと顔をみずほにむけて、おじいちゃんは、ほほえんだ。

「だけど心配せんでもええよ。そりや、おじいちゃんがまだ四十歳さひやったら、子どもや家族を残して死なれへんと苦しむやろな。なにがなんでも一日でも長く生きたい、と思うのがふつうやな。でも今はなんの心配もない。ありがたいことや」

「生きるの、いやなん？」

「そーんな、あほな」

おじいちゃんはわらった。

「生きるの、楽しいで。朝目がさめたら、おー、きょうはなにが待ってるかな、どんなことがあるかな、って思う。どんな人に会うかなと思つと、無精ぶしょうひげなんかはやしてられん。朝、顔あらって、ひげそりして、髪かみにくしを入れたら、しゃきつとしてな、わくわくする」

そんなあたりまえのこと、なにが楽しいんだらう。④みずほはおじいちゃんを遠く感じた。

おじいちゃんは死ぬのかもしれない。たったひとり、みずほたちの前からいなくなってしまう。二度ともどってこられない。話すこともふれることもできなくなってしまう。

「あいな」

おじいちゃんがしずかな声でいった。みずほは顔をあげた。

走りぬける道路わきの柿畑は、赤い実がめだちはじめていた。

「ほら、あそこの⑤柿の木、この間まで青かったのに、時季が来て赤くなってる。じきに⑥ジユクすやる。そしたら、ぽとりと落ちる。だけどな、それで終わりやないやろ。種が土に落ちて、芽を出し、大きくなる。柿の実が落ちることのでつぎの命につなげているんやなあ」
おじいちゃんは、ひとりごとをつぶやくように話す。

「生きることを投げだしたり、あきらめたりするつもりはないねん。時間やなくて中身や。自分らしい生きかたして、柿の実がぽとりと落ちるように、自然にまかせて終わりたいんや」

おじいちゃんはいいながらうなずいていた。

「『⑥たとえあした、世界が滅亡しようともきょうわたしはりんごの木を植える』ってことば、聞いたことないか？」

「聞いたことない」

そくぎに答えた。おじいちゃんは、「そうか、まだ小学生やもんなあ」といつてくすつとわらった。みずほはむっとした。

「あした世界がなくなるとわかってるのに、そんなむだなこと、なんでするの」

「そう思う？ たしかにな、おじいちゃんもはじめてこのことばを知ったときには、そう思ったなあ。だけどな、そのうち考えるようになったんや。人はみんなかならず死ぬやろ。それやったら死ぬために生きるんなら、なんで生きなあかんのやろか、とな。死んだらそれで終わりやったら、生きるのは無意味や」

うーん、たしかにそうともいえるけど、でも……、とみずほはどこか納得できなかつた。

「りんごの木を植えるのは未来への希望やろな。りんごが実るのを見ることはできへんでも、新しいりんごの木を植えることが自分の役目だとしたら、それを淡々とすることやろな、と思うんや。希望をなくしたら、人間、生きるのが苦しいと思うで」

希望！ みずほはそんなことを、まじめに考えたことはなかつた。

「おじいちゃん、りんごの木、つてなに？」

「そやな、いろいろあるな。花を植えることも、そうやし。それににより、みずほや義人も、みずほのお父さんとお母さんも、おじいちゃんの新しいりんごの木やで」

みずほはちよつとどきんとした。うれしいような、てれくさい気持ちだ。

「きょうすること、こつこつやるのが、おじいちゃんの仕事や。そして、そのささやかな仕事ができる毎日を、感謝してよろこんで生きたいんや」

「だけど、命がなくなったら、終わりじゃん」

ぶっきらぼうにはねかえす。でもおじいちゃんはつづけた。

「そうやるか。命が終わっても、それで全部終わりやないと思うで。じつさい、おじいちゃんは両親や、兄弟、お世話になった先生や先輩たちからいろんなこと教えてもらったりしてきて、その人たちが今のおじいちゃんを作っているねん。それを最近しみじみ感じるんや。そやから、おじいちゃんは⑦死んでも生きつづけると思えるんや。ほら、おじいちゃんにはみずほがいてる、義人がいてる。な、つながる何人かに命は受けつがれているやろ。希望や！ おじいちゃんには希望があるねん。ふたりはこれからどんな人生をおくっていくやろ、と考えるだけで楽しくなるんや」

わかったような、わからない話だ。どう反論したらいいのか、だまりこくっているうちに、車は園芸店に着いた。

(大谷美和子『りんごの木を植えて』)

問一 ㉔㉕のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 ㉖㉗㉘「口ごもる」、㉙「苦わらい」の意味として最も適切なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

X 「口ごもる」

Y 「苦わらい」

ア はっきり大きな声で話すこと。

ア 困ったり気まずかったりしてわらうこと。

イ 人の話をさえぎって話すこと。

イ おもしろくて大きな声でわらうこと。

ウ 言いくそくに言葉をつまらせること。

ウ 思わずうれしくなってしまうこと。

エ 話そうとした内容を忘れてしまうこと。

エ 人をばかにしてわらうこと。

問三 ①「はっきりとおじいちゃんの口から聞きたかった」とありますが、みずほが聞きたかったこととは何ですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 現在のおじいちゃんの体調。

イ 病気のことをかくしていた理由。

ウ 具体的な病気の治療内容。

エ 治療をしないと決めた理由。

問四

—— ② 「だって、わたし、二年生のとき腕を骨折したけど、ちゃんとお医者さんが治してくれはったやん」とありますが、みずほはこのときどのような気持ちで話していると考えられますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア おじいちゃんの病気を軽く考えている。

イ 自分の体験したことをじまんしている。

ウ 治療を受けないおじいちゃんの判断が理解できないでいる。

エ 病気のことをちゃんと理解していることをアピールしている。

問五

—— ③ 「病院のベッドで過ごすのは、もったいない時間の過ごしかたやねん」とありますが、おじいちゃんがそのように言ったのはなぜですか。次の文の空らんにあてはまる言葉を本文中から八字で探し、書きぬきなさい。

・ 八字 にしたいから。

問六

—— ④ 「みずほはおじいちゃんを遠く感じた」とありますが、なぜそのように感じたかを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を本文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

・ おじいちゃんは運転も庭仕事もできるくらいまだ 1 (二字) なのに、 2 (二字) ことを受け入れているように見える

し、「生きるのが楽しい」と言いながら、おじいちゃんが楽しいと言っているのはみずほにとって 3 (五字) のことに

過ぎず、おじいちゃんの考えや感じ方が自分とはちがうと感じたから。

問七

—— ⑤ 「柿の木」とありますが、おじいちゃんが「柿の木」の話をしたのは、どのような考えをみずほに伝えるためだと考えられますか。それを説明した次の文の空らん * に共通してあてはまる漢字一字を答えなさい。(本文中にあります。)

・ * が終わっても、次の * につながるのだという考え。

問八

—— ⑥ 「たとえあした、世界が滅亡しようともきょうわたしはりんごの木を植える」とありますが、おじいちゃんにとって「りんごの木を植える」とはどんな意味を持っているのですか。それを最も簡潔に表した言葉を本文中から六字で探し、書きぬきなさい。

問九

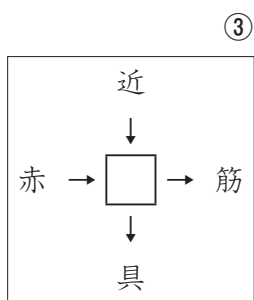
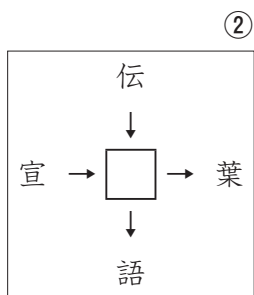
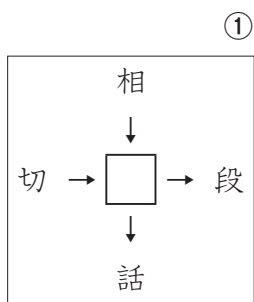
—— ⑦ 「死んでも生きつづける」というおじいちゃんの考えをまとめた次の文の空らんにあてはまる言葉を本文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

・今の自分は、亡くなった家族や **1(七字)** 人々によって作られていると感じる。同じように、自分の命を受けつぐみずほたちがどんな **2(二字)** を送るかを楽しみにしながら残された時間をともにすることで、死んだあともみずほたちの **3(三字)** でいっしょに生きつづけることができる。

三 次の各問いに答えなさい。

問一

次の語句の□にあてはまる共通する漢字一字をそれぞれ書き、二字熟語を完成させなさい。ただし、二字熟語は矢印の向きに読むこととします。



問二

次にあげる熟語の(1)読みをひらがなで書き、(2)その読み方にあてはまるものを次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 台所 ② 景色 ③ 巻物

ア 音読み+音読み

イ 訓読み+訓読み

ウ 重箱読みじゅうばこ

エ 湯桶読みゆとう

オ 熟字訓じゆくじくん

問三

次にあげる漢字の(1)部首名をひらがなで書き、(2)総画数を算用数字(1、2、3…)で書きなさい。

【例】「休」部首名(にんべん) 総画数(6)

- ① 陞 ② 枚 ③ 蒸 ④ 域

